

第14回 日本炎症性腸疾患学会学術集会（JSIBD）参加報告



2023年12月1日（金）～2日（土）まで第14回 日本炎症性腸疾患学会学術集会（JSIBD）が開催され、当院からも参加し発表をいたしました。

日比紀文先生

- ・潰瘍性大腸炎治療多様化時代における基準薬の重要性
- ・MSセッション【職種間連携で取り組む患者支援】

小林 拓先生

- ・クローン病診療における便中カルプロテクチンの有用性
- ・中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者（日本人患者を含む）でのミキズマブの有効性：前治療歴別解析
- ・LUCENT試験でミキズマブを投与した中等症・重症潰瘍性大腸炎患者の抗薬物抗体の発見状況とその意義
- ・本邦におけるクローン病治療のT2Tストラテジーの認知・実施度の実態：全国オンライン調査
- ・潰瘍性大腸炎の治療 Up-to-Date 軽症～重症・難治例の治療を再考する

第14回 日本炎症性腸疾患学会学術集会（JSIBD）参加報告



佐上晋太郎先生

★優秀賞★

・経会陰腸管エコーの直腸壁肥厚早期改善は、潰瘍性大腸炎の内視鏡的・組織学的治癒を予測する

梅田智子先生

・メタボローム解析を用いた炎症性腸疾患に対する新規治療法の開発

芹澤 奏先生

・潰瘍性大腸炎における便意切迫感と内視鏡・組織学的活動性との相関

和田晴香先生

・18th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation (ECCO'2023)派遣医師参加報告：Impacts of 5-aminosalicylic acid on the intestinal microbiota leading to the anti-inflammatory effect